

厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）

（分担）平成 24～26 年度総括研究報告書

高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究

研究分担者 蜂須賀 研二 門司メディカルセンター・院長
産業医科大学・名誉教授

研究要旨：九州各県に支援拠点機関を設置し支援コーディネーターを配置し，具体的支援活動を促進させた。アパシーの診断等に有用と期待される脳受容体シンチグラフィーの臨床応用に関する研究を行った。高次脳機能障害者の注意持続検査や経頭蓋直流電気刺激による注意障害の治療など電気生理学的手法を用いた臨床研究を行った。高次脳機能障害者の自動車運転適正評価の指針の提言に向けて共同研究を実施し、研究会の開催、書籍の刊行等を行った。入院や通院訓練等の医療リハビリテーションを完了しても社会復帰が困難である高次脳機能障害患者を対象に社会復帰準備のためのリハビリテーション学級を開催した。簡易な心理検査について標準値の設定や代替版作成の試み等を行った。

A. 研究目的

九州各県内に高次脳機能障害支援ネットワークを確立させ支援活動の充実をはかること。また、産業医科大学では高次脳機能障害者支援に直接関係する臨床研究を実施し、その結果を高次脳機能障害者支援推進に活用するとともに広く成果を公表して高次脳機能障害者および家族に還元すること。

B. 研究方法

九州各県を代表する医療関係者にブロック委員を依頼し、行政担当者と連携して支援システムを構築し、ブロック委員と行政

担当者が合同でブロック会議を年1回開催し、それぞれの地区における高次脳機能障害支援ネットワークに関する情報を交換し、相互に進捗状況を確認し、支援システム構築に役立てる。

産業医科大学において臨床研究を実施し、その成果を高次脳機能障害者支援に活用するとともに学会発表、論文発表などを通して広く公表する。

C. 研究結果

1. 九州ブロックの研究成果

1)九州ブロック会議

厚生労働省「高次脳機能障害支援ネットワーク」研究班の趣旨に従い、各県1名(佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)、福岡県は高次脳機能障害支援モデル事業に参画した拠点機関および協力機関代表者3名、事務局委員2名、全体として12名のブロック委員を委嘱した。

福岡県:

・北九州市産業医科大学リハビリテーション医学講座・教授 蜂須賀研二

(平成26年度より同講座名誉教授)

・福岡市福岡市立心身障がい福祉センター・神経内科医師 黒田智美(平成25年度より同センター神経内科医師 小原葉子に交代)

・筑後地区久留米大学高次脳疾患研究所・教授 森田喜一郎

・福岡県障害者リハセンター・センター長 塚本清久(オブザーバー)

佐賀県:佐賀大学・教授 浅見豊子

長崎県:長崎大学・教授 松坂誠應

熊本県:熊本大学精神科・准教授 橋本衛

大分県:諏訪の杜病院・院長 武居光雄

宮崎県:宮崎大学・教授 帖佐悦男

鹿児島県:鹿児島大学大学院教授 浜田博文
(平成26年度より鹿児島大学大学院医歯学総合研究科・教授 下堂園恵に交代)

沖縄県:ちゅうざん病院・院長 田中正一

事務局委員:産業医科大学リハ医学・講師

岡崎哲也、産業医科大学病院・高次脳機能障害支援コーディネーター 中藤麻紀

事務局:産業医科大学リハ医学講座

〒807-0805 北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1

TEL093-691-7266

(1) 平成24年度厚労省科研費研究班九州ブロック会議・高次脳機能障害支援担当者会議
平成24年7月20日(福岡県吉塚合同庁舎)
参加者44名

1) 研修講演

・「研究班の事業」国立障害者リハビリテーションセンター・学院長 中島八十一

・「千葉県高次脳機能センター開設の経緯」千葉リハビリテーションセンター長 吉永勝訓

2) 各県の取り組み報告

(2) 平成25年度厚労省科研費研究班九州ブロック会議・高次脳機能障害支援担当者会議
平成25年7月26日(福岡県吉塚合同庁舎)
参加者43名

1) 研修講演

・「高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業平成25年度事業運営方針」国立障害者リハビリテーションセンター・学院長 中島八十一

・「高次脳機能障害者への取り組み」熊本大学・神経精神科 講師 橋本衛

・「外傷性脳損傷者のIMZ SPECT-高次脳機能障害の画像化の試み-」産業医科大学病院リハビリテーション医学講座・教授 蜂須賀研二

2) 各県の取り組み報告

(3) 平成26年度厚労省科研費研究班九州ブロック会議・高次脳機能障害支援担当者会議
平成26年7月28日(福岡県吉塚合同庁舎)
参加者26名

1) 研修講演

・「高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業平成26年度事

業運営方針」国立障害者リハビリテーションセンター

学院長 中島八十一

- ・「日米におけるリハビリテーション医療の比較」鹿児島大学大学院医歯学総合研究科・教授 下堂園 恵

2) 各県の取り組み報告

2) 九州地区の活動の概要

九州全県に少なくとも1カ所以上の高次脳機能障害支援拠点機関が設置され合計14カ所を数え、高次脳機能障害支援コーディネーターおよび担当者は各機関に1名以上配属され、合計18名となった。相談件数は16,666件である。また、研修事業は122回開催され、述べ11,540人が参加した。

各県の高次脳機能障害支援拠点機関と支援コーディネーター(含む担当医、担当者)を下記に示す。

福岡県

- ・福岡県身体障害者リハビリテーションセンター

〒811-3113 古賀市千鳥3-1-1

TEL 092-944-1041

下瀨和義(社会福祉士)

秋竹理美(社会福祉士)

- ・産業医科大学病院

〒807-8555北九州市八幡西区医生ヶ丘

L - L

TEL 093 - 603 - 1611

甲斐明子(臨床心理士)

上原純子(臨床心理士)

(平成26年度より中藤麻紀)

- ・久留米大学病院脳神経外科

〒830-001L福岡県久留米市旭町67

TEL0942-35-3311(代表)

弥吉江理奈(精神保健福祉士)

- ・福岡市立心身障がい福祉センター(あいあいセンター)

〒810-0072 福岡市中央区長浜1-2-8

TEL 092 - 721 - 1611

和田明美(理学療法士)

佐賀県

- ・佐賀大学医学部附属病院

〒849-850L佐賀市鍋島5-1-1

TEL0952-31-6511(代表)

小野茂伸(言語聴覚士)

長崎県

- ・長崎こども・女性・障害者支援センター

障害者支援部更生相談課地域支援班

〒852-8114長崎市橋口町10-22

TEL 095-844-5132

井戸裕彦(作業療法士)

熊本県

- ・熊本大学医学部付属病院神経精神科

熊本県高次脳機能障害者支援センター

〒860-0811熊本市本荘1-1-1

専門ホットライン TEL 096-272-5784

田中希(精神保健福祉士)

大分県

- ・社会福祉法人農協共済別府リハビリテーションセンター

実践リハビリテーション部

社会復帰支援課

〒874-0840 大分県別府市鶴見1026-10

TEL 0977-67-1711(代)

安藤靖浩(精神保健福祉士)

- ・医療法人 光心会 諏訪の杜病院

〒870-0945大分県大分市津守888-6

TEL097-567-L277(代)

陰山友紀(言語聴覚士)

宮崎県

・宮崎県身体障害者相談センター

〒880-0032 宮崎県宮崎市霧島1-1-2

TEL 0985-29-2556

平田茂樹(行政)

有木昌子(保健師)

鹿児島県

・鹿児島県高次脳機能障害者支援センター

(鹿児島県精神保健福祉センター内)

〒890-0065鹿児島市郡元3-3-5

TEL 099-252-3366

尾上佳代子(保健師)

沖縄県

・沖縄リハビリテーションセンター病院

高次能ケア

沖縄県沖縄市比屋根2-15-1

鈴木里志(作業療法士)

平良淳子(精神保健福祉士)

・医療法人へいあん平安病院 地域医療部

医療相談係

〒901-2553 沖縄県浦添市字経塚346番地

TEL 098-877-6467(内線230・237)

赤嶺洋司(臨床心理士)

徳元裕子(精神保健福祉士)

比嘉弥生(精神保健福祉士)

3) 各県の活動成果の報告

各拠点機関では各地の状況に応じて平成24年度～26年度の3年間に活発な相談事業、研修会が開催された。各県の相談件数実績は延べ16,666件であった。各県での研修事業は合計122回開催され、その参加者総数は11,540名を数えた。

4) 脳受容体シンチグラフィーの臨床応用に関する研究

意欲低下(アパシー)は動機づけや意図的行動の減少であり、高次脳機能障害では臨床的に頻度の高い症状である。しかし客観的証拠に乏しく、気持ちの持ちよう、詐病、わがままと誤解されやすい。高次脳機能障害者で詳細な問診、神経心理学的精査と脳受容体シンチグラフィーを実施した外傷性脳損傷者11名を対象に検討した。診察と神経心理学的検査で高次脳機能障害と診断された10症例には脳受容体シンチグラフィーにて両側前頭葉内側に集積低下を認め、高次脳機能障害ではないと診断した1例では同部位の集積低下を認めなかった。また、平成24年度より脳外傷後高次脳機能障害に対するIOMAZENIL SPECT共同研究(代表・東北大学 森悦朗教授)へ参加して該当症例の集積に努めている。

5) 高次脳機能障害者の復職評価のための注意持続検査

長時間の注意持続評価法として、750回刺激による21分間の聴覚オドボール課題時のP300を外傷性脳損傷者21名、健常者14名に実施した。健常者では時間経過とともに前帯状回でのP300振幅の大きな変化を認めたが外傷性脳損傷者では時間経過に伴う変化を認めなかった。健常者では時間経過において注意の容量を減らして作業に対応しているが、外傷性脳損傷者はそのような対応ができないために疲労し易いことが示唆された。

6) 高次脳機能障害者の自動車運転再開と

リハビリテーションに関する研究

高次脳機能障害者の自動車運転適性の判定に積極的に取り組み、発信している全国の施設が集まり、産業医科大学を事務局として「自動車運転再開とリハビリテーションに関する研究班」を平成 24 年度に立ち上げて自動車運転再開指針に関わる共同研究計画を策定し、平成 25 年度より共同研究を実施中である。

平成 25 年 10 月 25 日に第 1 回自動車運転再開とリハビリテーションに関する研究会を北九州国際会議場で開催し、研究会の内容を書籍として刊行した（高次脳機能障害者の自動車運転再開とリハビリテーション< 1 > : 蜂須賀研二編 金芳堂出版 2014）。平成 26 年 9 月 27 日には第 2 回研究会を同会場で開催し、第 1 回同様に書籍を刊行予定である。また、九州産業大学と産業医科大学が共同開発し、前述の共同研究で用いた簡易自動車運転シミュレーター（SIMPLE DRIVING SIMULATOR ; SDS）が市販化され、医療機関で簡便に広く実施することが可能となった。

7) 経頭蓋直流電気刺激 (tDCS) による注意障害の改善に関する研究

高次脳機能障害者を対象に tDCS 治療後に注意機能評価や運転能力評価を実施し効果を確認する研究を現在まで 8 名の患者に実施した。その結果 Sham 群と比較し、刺激群で TMT-B ,CAT CPT の SRT 課題反応時間が改善する傾向を示した。自動車運転能力に関しては有意な結果は得られなかった。

8) 社会復帰準備のためのリハビリテーション学級

入院や通院訓練等の医療リハビリテーションを完了しても社会復帰が困難である高次脳機能障害患者を対象に平成 24-25 年度は計 5 名に対して社会復帰準備のためのリハビリテーション学級（小集団訓練）を水曜日の午後、約 2 時間 30 分の設定で 10 回実施した。日常生活における意欲の向上、自らの高次脳機能障害の理解促進、参加者や医療スタッフとの交流が深まり声かけや挨拶など基本的な社会技能の向上が認められた。

9) 簡易心理検査の青年標準値

15～30 歳の健常青年 124 名を対象に簡易心理検査の青年標準値を設定し、学術誌へ発表した。

（高次脳機能障害に使用される簡易な神経心理学的検査の青年標準値-Mini-Mental State Examination, Trail Making Test, Wisconsin Card Sorting Test パソコン版, 三宅式記銘力検査- .The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 50(12): 962 -970 2013）

10) Trail Making Test 代替版作成に関する研究

Trail making test に Wagner ら(2011) に準じた 3 種類の代替版を加えた 4 種の図版間について成績差の検討を開始した。これまで健常者 35 名の 4 種の図版間の所要時間は Part A では有意差はなく、Part B では一部の図版間で有意な差を認めた。施行順序、練習効果について他さらに例数を増や

しながら検討を要する。

D. 考察

高次脳機能障害のリハビリに関して各県を代表する立場にある医療関係者をブロック委員に選任し、行政担当者と合同で会議を開催して研修や支援事業の進捗状況の報告を行った。ブロック会議を通して最新の情報や他県の状況を把握することができ、相互に競争意識を持ちながら事業を活発に進めることができたと考える。ブロック会議に合わせてと別機会に年2回支援コーディネーター同士での情報交換の場も設け、県域をまたいだ支援を円滑に運ぶうえでも有意義であった。

産業医科大学では高次脳機能障害の臨床的診断と治療に加えて机上検査、電気生理学的検査、核医学検査に関する研究を推進し、成果を広く公表した。ニーズの高い自動車運転の再開については研究班を立ち上げて共同研究を実施し、研究会の開催、書籍の刊行等を行った。

E. 結論

九州ブロック委員は行政担当者と協力して高次脳機能障害者支援システム確立に取り組み、研修会開催や相談事業を実施し、九州8県全ての支援拠点機関、支援コーディネーターを中心とした高次脳機能障害者支援に関わるスタッフが経験を積みながら一層発展した内容で事業を推進することができた。

F. 研究発表

1. 論文発表

末尾に掲載する。

2. 学会発表

末尾に掲載する。

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

研究成果発表に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
岩永 勝 蜂須賀 研二	記憶障害のリハビリテーション	武田克彦、 長岡正範	高次脳機能障害 - その評価とリ ハビリテーシ ョン	中外 医学社	東京	201209	122-126
加藤 徳明	高次脳機能障害者の 自動車運転再開に 関する研究報告：文献レ ビュー	蜂須賀 研二	高次脳機能障害者 の自動車運転再開 とリハビリテーシ ョン1	金芳堂	京都	201405	76-88
蜂須賀 研二	高次脳機能障害者の 自動車運転と社会参 加	蜂須賀 研二	高次脳機能障害者 の自動車運転再開 とリハビリテーシ ョン1	金芳堂	京都	201405	26-35

学術誌発表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kondo, M. Mori, T. Makino, K. Okazaki, T. Hachisuka, K.	Failure to paint the left quarter of a watercolor and no error in a line drawing: A case report of an art teacher with unilateral spatial neglect	Neurocase	Vol 18- No3	212-216	2012/06
蜂須賀 研二	前頭葉損傷による高次脳機能障 害の全人的認知リハビリテーシ ョン	高次脳機能研究	Vol 32- No3	353-354	2012/09
蜂須賀 研二 加藤 徳明 岩永 勝 岡崎 哲也	高次脳機能障害の発症率とリハ ビリテーション医療の必要性	Jpn J Rehabil Med	Vol 49- No5	214-219	2012/05

岩永 勝 甲斐 明子 岡崎 哲也 蜂須賀 研二	地域における高次脳機能障害者 支援活動	J Clin Rehabil	Vol 21- No11	1069-1075	2012/11
武本 暁生 岡崎 哲也 蜂須賀 研二	高次脳機能障害	Med Rehabil	152	69-73	2012/12
Katou, N. Iwanaga, M. Okazaki, T. Hachisuka, K.	Did the educational campaign to support persons with cognitivedysfunction encourage them to participate in society in Northern	Brain Inj.	Vol 27- No12	1423-1427	2013
岡崎 哲也	高次脳機能障害の社会復帰と職 場復帰	Jpn J Rehabil Med	Vol 50- No7	543-546	2013
岡崎 哲也 佐伯 寛 蜂須賀 研二	高次脳機能障害に使用される簡 易な神経心理学的検査の青年標 準値 - Mini-Mental State Examination, Trail Making Test, Wisconsin Card Sorting Test パソコン版, 三宅式記銘力 検査 -	Jpn J Rehabil Med	Vol 50- No12	962-970	2013
川邊千津子 石井洋平 藤木 僚 小路純央 森田喜一郎	トランプの「神経衰弱」実施時に おける高次脳機能障害者の脳血 流の特徴 -NIRS を用いた健常 者との比較-	作業療法	32 (5)	451 461	2013
尾上佳代子 杉田郁子 大園佳子 富永秀文	鹿児島県における高次脳機能障 害者支援活動	鹿児島高次脳機 能研究会会誌	24巻1号	35 ~ 41 p	2013

大園 佳子	鹿児島県高次脳機能障害者支援センターにおける支援の現状と課題	日本公衆衛生雑誌	第 61 巻 第 10 号	P240	201410
白石 純一郎 岩永 勝 佐伯 覚 蜂須賀 研二	脳出血後の慢性期失語症患者に対して経頭蓋直流電気刺激法が奏功した一例	臨床リハ	Vol 23 No 3	290-295	201403
佐伯 覚 白石 純一郎 岩永 勝 越智 光宏 松嶋 康之 蜂須賀 研二	脳卒中患者に対する経頭蓋直流電気刺激の安全性について	総合リハ	Vol 42 No 5	463-466	201405
伊藤 英明 豊平 由美子 佐伯 覚 柳原 延章 蜂須賀 研二	脳内モノアミントランスポーターと薬物療法	総合リハ	Vol 42 No 5	395-400	201405
蜂須賀 研二	リハビリテーション医療におけるアパシーとその対策	高次脳機能研究	Vol 34 No 2	184-192	201406
加藤 徳明 蜂須賀 研二	運転再開に向けた流れと関連法規	臨床リハ	Vol 23 No 8	769-773	201408
岡崎 哲也 加藤 徳明 蜂須賀 研二	運転支援装置による運転評価	臨床リハ	Vol 23 No 10	989-993	201410
岡崎 哲也	脳炎・脳症による高次脳機能障害	Jpn J Rehabil Med	Vol 51 No 12	787-789	201412

Mak, Y. Yamaguchi, T. Yamagami, T. Murai, T. Hachisuka, K. Miyamae, F. Ito, K. Awata, S. Ura, C. Takahashi, R. Yamaguchi, H.	The impact of subjective memory complaints on quality of life in community-dwelling older adults.	Psychogeriatrics	Vol 14 No 3	175-181	201409
--	---	------------------	----------------	---------	--------

学会発表

演者名	タイトル	開催日	学会・大会名	開催地
川邊 千津子 石井 洋平 藤木 僚 小路 純央 森田 喜一郎	後だしじゃんけん時の高次脳機能障害者における酸素化ヘモグロビン変動の特徴：健常者と比較して	2012/10	第 65 回九州精神神経学会	別府
岡崎 哲也	高次脳機能障害の評価とそのリハビリテーション - 高次脳機能障害のリハビリテーションと職場復帰 -	2012/04	第 37 回 日本脳卒中学会	福岡
高橋 真紀 伊藤 英明 千坂 洋巳 大野 重雄 橋本 学 蜂須賀 研二	回復期リハ病棟における脳卒中後うつに対するSSRIの臨床効果：無作為化前向き比較試験	2012/05	第 49 回 日本リハビリテーション医学会学術集会	福岡
加藤 徳明 岡崎 哲也 蜂須賀 研二	高次脳機能障害者の自動車運転再開	2012/05	第 49 回 日本リハビリテーション医学会学術集会	福岡

伊藤 英明 松嶋 康之 佐伯 覚 蜂須賀 研二	脳循環改善薬・ニセルゴ リンがモノアミントラン スポーターに及ぼす影響	2012/05	第 49 回 日本リハビリ テーション医学会学術集 会	福岡
岡崎 哲也	高次脳機能障害のリハビ リテーション - 診断, 治 療, 支援のエビデンス - 高次脳機能障害者の社会 復帰と職場復帰	2012/05	第 49 回 日本リハビリ テーション医学会学術集 会	福岡
岡崎 哲也 西野憲史 蜂須賀 研二	視覚性運動失調 ataxie optique を認めた右頭頂 葉皮質下出血の一例	2012/05	第 49 回 日本リハビリ テーション医学会学術集 会	福岡
岩永 勝 蜂須賀 明子 加藤 徳明 岡崎 哲也 蜂須賀 研二	外傷性脳損傷者に対する 事象関連電位を用いた Sustained attention 評価	2012/06	第 49 回 日本リハビリ テーション医学会学術集 会	福岡
Takahashi, M. Itou, H. Chisaka, H. Oono, S. Hashimoto, M. Hachisuka, K.	The Clinical Effect of SSRIs for Poststroke Depression in the Convalescent Rehabilitation Ward: A Randomized Control Study	2012/09	Asia Pacific Stroke Conference 2012	Tokyo
Itou, H. Matsushima, Y. Toyohira, Y. Ueno, S. Saeki, S. Yanagihara, N. Hachisuka, K.	The effects of nicergoline, an ameliorator of cerebral circulation and metabolism, on the monoamine transporter	2012/10	8th World Stroke Congress	Brasilia

加藤 徳明 甲斐 明子 武本 暁生 岡崎 哲也 蜂須賀 研二	高次脳機能障害者の自動 車運転状況と神経心理学 的検査の比較	2012/11	第 36 回 日本高次脳機 能障害学会	宇都宮
武本 暁生 中津留 正剛 飯田 真也 樺島 美由紀 甲斐 明子 岡崎 哲也 蜂須賀 研二	試験的就労を通じて記憶 障害に対する外的補助手 段の活用能力が向上した 一例	2012/11	第 36 回 日本高次脳機 能障害学会学術総会	宇都宮
岩永 勝 蜂須賀 明子 加藤 徳明 岡崎 哲也 蜂須賀 研二	外傷性脳損傷者に対する 事象関連電位を用いた長 時間作業時の易疲労の検 討	2012/11	第 42 回 日本臨床神経 生理学会学術集会	東京
橋本 学 加藤 徳明 岡崎 哲也 蜂須賀 研二 甲斐 明子	外傷性脳損傷者における パーソナリティ傾向が心 理社会的機能に及ぼす影 響	2012/11	第 36 回 日本高次脳機 能障害学会学術総会	宇都宮
岡崎 哲也 西野 憲史 蜂須賀 研二	右頭頂葉皮質下出血後に 視覚性運動失調 ataxie optique を認めた一例	2012/11	第 36 回 日本高次脳機 能障害学会学術総会	宇都宮
蜂須賀 研二 岡崎 哲也 加藤 徳明 蜂須賀 明子 掛田 伸吾	高次脳機能障害を生じた 外傷性脳損傷患者の神経 心理学的検査所見と脳受 容体シンチグラフィー画 像の検討	2012/11	第 36 回 日本高次脳機 能障害学会学術総会	宇都宮
石黒 栄亀 杉保 聖子 岡崎 哲也 蜂須賀 研二	脳機能障害に関連した嗅 覚低下への適用に向けた 簡易検査に関する予備的 研究	2012/11	第 36 回 日本高次脳機 能障害学会学術総会	宇都宮

川邊 千津子 石井 洋平 藤木 僚 小路 純央 森田 喜一郎	高次脳機能障害者の後出しじゃけんにおける脳血流状態の特徴：事例を通して	2013.6.28-30	第 47 回日本作業療法学会	大阪
川邊 千津子 石井 洋平 藤木 僚 小路 純央 森田 喜一郎	後出しじゃけん時の酸化ヘモグロビン変動の最大値及び潜時の評価	2013.11.7-9	第 43 回日本臨床神経生理学会	高知
中津留 正剛 飯田 真也 頓所 つく実 樺島 美由紀 武本 暁生 岡崎 哲也 加藤 徳明 蜂須賀 研二	当院で実施した外傷性脳損傷患者における標準注意検査法（CAT）の成績とその特徴	2013/11	第 37 回日本高次脳機能障害学会学術総会	松江
岡崎 哲也 甲斐 明子 蜂須賀 研二	メモ使用を許可した日常記憶評価の試み	2013/11	第 37 回日本高次脳機能障害学会学術総会	松江
甲斐 明子 橋本 学 岡崎 哲也 蜂須賀 研二	ミネソタ多面人格目録（MMPI）の分類による外傷性脳損傷者の心理社会的特性	2013/11	第 37 回日本高次脳機能障害学会学術総会	松江
蜂須賀 研二	リハビリテーション医療現場におけるアパシーとその対策：総論	2013/11	第 37 回日本高次脳機能障害学会学術総会	松江
高橋 真紀 蜂須賀 研二	回復期リハ病棟における脳卒中後うつとアパシー - 脳卒中後うつに対する SSRI の臨床効果：無作為化前向き比較試験 -	2013/11	第 37 回日本高次脳機能障害学会学術総会	松江

川邊千津子 石井洋平 藤木 僚 小路純央 森田喜一郎	高次脳機能障害者における後出しじゃんけん時の酸化ヘモグロビン変動の最大値及び潜時の特徴：健常者と比較して	2014/11	第44回日本臨床神経生理学学会学術大会	福岡
Itou, H. Toyohira, Y. Matsushima, Y. Saeki, S. Yanagihara, N. Hachisuka, K.	Nicergoline, an ameliorator of cerebral circulation and metabolism, decreases the norepinephrine transporter, which are known as intracellular targets of antidepressants.	2014/05	第23回 European Stroke Conference	フランス (ニース)
伊藤 英明 松嶋 康之 佐伯 覚 蜂須賀 研二	抗うつ薬の標的蛋白であるノルエピネフリントランスポーターに対する脳循環代謝改善薬の効果	2014/06	第51回 日本リハビリテーション医学会	名古屋
佐伯 覚 蜂須賀 研二 豊永敏宏	脳卒中後の復職率の経時的変化 2コホート研究間の予測要因別比較	2014/06	第51回 日本リハビリテーション医学会学術集会	名古屋
岡崎 哲也	脳炎・脳症による高次脳機能障害	2014/06	第51回 日本リハビリテーション医学会学術集会	名古屋
加藤 徳明 岡崎 哲也 蜂須賀 研二	有効視野 Useful Field of View(UFOV)検査と自動車運転シミュレーターとの関連性の検討	2014/06	第51回 日本リハビリテーション医学会学術集会	名古屋
岩永 勝 蜂須賀 明子 加藤 徳明 岡崎 哲也 蜂須賀 研二	外傷性脳損傷者の易疲労に関して事象関連電位を用いた検討	2014/06	第51回 日本リハビリテーション医学会学術集会	名古屋

Itou, H. Toyohira, Y. Matsushima, Y. Saeki, S. Yanagihara, N. Hachisuka, K.	Nicergoline and Cilostazol decreases the function of norepinephrine transporter, which is known as cellular target of antidepressants.	2014/10	9th World Stroke Congress	トルコ (イスタンブール)
Katou, N. Okazaki, T. Saeki, S. Hachisuka, K. Matsunaga, K.	Evaluation of automobile driving resumption in stroke patients using a simple driving simulator	2014/10	9th World Stroke Congress	トルコ (イスタンブール)
伊藤 英明 豊平 由美子 松嶋 康之 佐伯 覚 上野 晋 蜂須賀 研二 柳原 延章	モノアミントランスポーターに対する脳循環代謝改善薬・ニセルゴリンの効果	2014/11	第7回 トランスポーター研究会九州部会 JTRAQ2014	北九州
佐伯 覚	リハビリから見た就労支援：予後予測と就労支援	2014/11	第62回 日本職業・災害医学界学術大会	神戸
加藤 徳明 飯田 真也 岡崎 哲也 蜂須賀 研二	脳障害者の自動車運転実車評価成績と神経心理学的検査の関連性	2014/11	第38回 日本高次脳機能障害学会学術集会	仙台
岡崎 哲也 加藤 徳明 中藤 麻紀	トレイルメイキングテスト代替版の信頼性に関する予備的検討	2014/11	第38回 日本高次脳機能障害学会学術総会	仙台